



「エネマネハウス2015」で、大学院理工学研究科の内田文雄教授、樋山恭介准教授らのプロジェクトチームが「優秀賞」と特別賞「地方創生賞」を受賞	1
福士准教授が国際シンポジウムで優秀論文賞を受賞	2
西形准教授が日本化学会の「第30回若い世代の特別講演賞」を受賞	2
西形准教授が有機合成化学協会の「東ソー研究企画賞」を受賞	2
平成27年度 山口大学と九州工業大学のテニユアトラック合同シンポジウムを開催	3
学長・理事とテニユアトラック教員との懇談会を開催	4
「学長・理事と女性教員との懇談会」に高野准教授が出席	4

第7号 2016年3月

「エネマネハウス 2015」で、大学院理工学研究科の内田文雄教授、樋山恭介准教授らのプロジェクトチームが「優秀賞」と特別賞「地方創生賞」を受賞

10月31日（土）に横浜市で開催された「エネマネハウス2015」の表彰式・講評会において、理工学研究科の内田文雄教授をリーダーとし、樋山恭介准教授（テニユアトラック）をサブリーダーとするプロジェクトチームが提案した「やまぐちさんの風の家」が「優秀賞」と特別賞「地方創生賞」を受賞しました。（「エネマネハウス2015」、の参加の採択については2015年9月発行の本ニュースレター6号で既報）



樋山先生と森の循環に役買うベレットストーブ

「エネマネハウス2015」は、“学生が考える、将来の家”をテーマとして、大学と民間事業者等が一体となってZEH（1年間の1次エネルギー収支が0の家）のモデルハウスを建築する展示会です。山口大学を含めて5つの大学が採択され、横浜市の会場で実測調査と展示が行われました。

山口大学のチームが提案した「やまぐちさんの風の家」は、自然採光・自然換気を活用するために階段状の空間を構成し、“かたち”を工夫することによって機械への依存度を減らしたものになっています。先生はサブリーダーとして、光環境とエネルギーのシミュレーションを行うことで“かたち”による住環境の達成レベルを設計の初期段階から確認するなど、これまでの研究成果を生かして本プロジェクトに取り組みました。

「やまぐちさんの風の家」では、ZEHとしての性能だけではなく、地元企業・職人の技術や地域の資源を活用した提案であることが高く評価されました。地域の力を結集した地方創生型モデルとして、本プロジェクトを通じて築いた設計技術の活用や森資源の循環の実現が期待されています。



▲ 3つの屋根のうち、一番奥には太陽光発電パネルが設置されています。電力需要の高い夏場に発電量が最大となるよう、傾斜角を設計しています。

▶ 出入り口の近くには、電気自動車の駐車スペースがあります。



▲ 採光や空気の流れなど、至る所に工夫を凝らした室内は、とても明るく開放的な空間です。



▲ 家族構成は夫婦+子供1人を想定しており、樋山先生が仮想の施主です。



▲ 中央の屋根に設置されている太陽熱給湯器により、安定した給湯が可能です。

福士准教授が国際シンポジウムで優秀論文賞を受賞

大学院理工学研究科情報・デザイン工学系学域情報システム工学分野准教授（テニュアトラック）福士将先生が国際シン



向かって右が福士先生、
左は共著者の越智郁さん（修士1年）

ポジウム「The 6th International Workshop on Advances in Networking and Computing」で優秀論文賞（WANK Best Paper Award）を受賞しました。

本シンポジウムは2015年12月8日～15日に北海道札幌市で開催されました。今回の受賞は、このシンポジウムで発表した論文である、「A Group-Based Job Scheduling Method for Parallel Volunteer Computing」の優秀さが認められたものです。この論文は、インターネットを通じてパソコンから提供される計算能力を用いて並列コンピュータを構築するボランティアコンピューティング（VC）において、これまで未対応であった並列計算を実現するためのジョブスケジューリング法を提案したものです。

福士先生は、今回受賞した論文の他にもWebブラウザを用いた相互通信環境の実装（2015年9月発行のニュースレター第6号で既報）等に取り組んでおられ、高性能なVCの構築に向けた技術発展への貢献が期待されています。

西形准教授が日本化学会の「第30回若い世代の特別講演賞」を受賞

大学院理工学研究科物質工学系学域准教授（テニュアトラック）西形孝司先生が日本化学会の「第30回若い世代の特別講演賞」を受賞しました。この賞は次世代の化学と科学技術を担う若手研究者を奨励することを目的として、物理化学や有機化学等の6部門について学界から広く募集があり、選考により20件以内を表彰するものです。授賞式は、2016年3月24日～27日に同志社大学京田辺キャンパスで開催される日本化学会第96春季年会にて行われます。さらに、受賞者は年会会期中に特別講演を行い、その内容は日本化学会の機関誌である「化学と工業」に掲載されます。

今回、受賞対象となった研究テーマは、西形先生が本学着任後に新しく取り組んだ「アミンにより制御される銅触媒反応の新展開」です。有機合成化学は、複雑な医薬品を合成するために斬新な分子構築反応の開発が求められています。この解決の

ために先生が着目したのが、合成反応を支配する“炭素活性種”です。炭素活性種にはラジカル、アニオンそしてカチオンなどの形態がありますが、それらを銅触媒とアミンにより制御する基礎的な手法を発見することに成功しました。この技術は複雑な医薬品分子を効率的に合成する際の基盤技術として期待されます。



西形先生

西形准教授が有機合成化学協会の「東ソー研究企画賞」を受賞



西形先生

大学院理工学研究科物質工学系学域准教授（テニュアトラック）西形孝司先生が有機合成化学協会の「東ソー研究企画賞」を受賞しました。この賞は、有機合成化学分野における優れた萌芽的研究の奨励を目的としており、副賞として学会と産業界の連携を推進するため賛同企業の寄付による研究助成金が贈られます。

受賞テーマは「アルカリ金属フッ化物を用いるアル

キル臭化物の銅触媒フッ素化反応開発」です。フッ素はその特異な性質のため有用物質に不可欠な元素であり、例えば医薬品の実に20～30%にフッ素が含まれています。そのため、効率的な分子のフッ素化反応の開発は有機合成における最重要課題の一つです。しかし、現行のフッ素化反応は非常に高価で調製の難しい試薬の開発が行われている一方で、安価で入手容易なアルカリフッ化物の効率的な利用法の開拓はほとんど行われていませんでした。そこで着目したのが、銅触媒を用いるアルカリフッ化物によるアルキル基のラジカル的フッ素化反応です。本手法は、医薬品などの有用分子を低コストかつ選択的にフッ素化を行うことができると期待されています。

平成 27 年度 山口大学と九州工業大学のテニュアトラック 合同シンポジウムを開催

平成 27 年 11 月 13 日（金）、山口大学常盤キャンパスで、「平成 27 年度 山口大学と九州工業大学のテニュアトラック合同シンポジウム」を開催し、約 60 名が参加しました。

九州工業大学 鹿毛 浩之 理事・副学長による開会挨拶で始まり、文部科学省 科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策推進室長 唐沢 裕之 氏からの来賓挨拶の後、科学技術振興機構科学技術プログラム推進部 プログラム主管 榎 敏明 氏からテニュアトラック制度が導入された背景や実施状況・今後のビジョンについて、様々なデータを用いて基調講演をして頂きました。続いて、駐日英国大使館 英国貿易投資総省専門官 並木 幸久 氏の講演では、「創発」をキーワードに、日本と世界を比較しながら、次世代型グローバルイノベーションにおける現状の問題点・今後の取組についてご講演頂きました。

その後、4 名のテニュアトラック教員による講演では、九州工業大学からは若手研究者フロンティア研究アカデミー 福岡 康裕 准教授及び川原 知洋 准教授が登壇し、山口大学からも樋山 恭助 准教授及び佐古田 幸美 助教が登壇しました。内容はテニュアトラック教員としての活動状況や自身の研究内

容、今後のビジョン等についてのもので、その後の質疑応答ではテニュアトラック教員同士が互いに質問するなど、充実したものとなりました。

その次のプログラムである「次世代・創発型教育による人材イノベーション」をテーマに行われたパネルディスカッションでは、並木氏がモデレータを務め、九州工業大学 若手研究者フロンティア研究アカデミー 金子 大作 准教授、山口大学 樋山 恭助 准教授、東洋鋼鉄株式会社 事業推進室 バイオチップ技術グループリーダー 山野 博文 氏、株式会社 MOT 総合研究所 上席研究員 糸原 義人 氏の 4 名が登壇し、イノベーションや産学連携、ベンチャー企業に関する様々な課題について、テニュアトラック制度を絡めた内容で、今後の制度発展に向けての活発な意見交換が行われました。

最後に、山口大学 岡 正朗 学長の挨拶で閉会しました。

山口大学と九州工業大学は、今後もテニュアトラックの普及・定着、そしてより良い研究の推進に向けた取り組みを行ってまいります。



熱心に講演を聞く参加者



パネルディスカッションの様子



集合写真

前列左から、東洋鋼鉄 山野 グループリーダー、九州工業大学 鹿毛 理事・副学長、JST 榎 PO、文部科学省 唐沢 人材政策推進室長、山口大学 岡 学長、駐日英国大使館 並木 専門官、山口大学 三池 理事・副学長、MOT 総合研究所 糸原 上席研究員
後列左から、九州工業大学 金子 准教授、川原 准教授、福岡 准教授、山田 教授、JST 福田 主任調査員、文部科学省 坂本 人材政策推進室 専門職、山口大学 進士 工学部長、堤 研究推進戦略部長、望月 産学公連携センター長、樋山 准教授、重本 学術研究部長

学長・理事とテニュアトラック教員との懇談会を開催

平成28年1月28日(木)、吉田キャンパスで、学長・理事とテニュアトラック教員との懇談会を開催しました。懇談会には岡 正朗 学長をはじめ理事3名と、テニュアトラック教員8名が参加しました。

懇談会の目的は学長・理事においては、若手研究者の活動や研究成果を確認することで研究環境の充実やテニュアトラック制度の推進など管理運営につなげるための場とし、テニュアトラック教員においては、学長・理事と直接意見交換できる機会を持つことにより、研究活動を進めるにあたってモチベーションを高めることです。今回で4回目の開催となり、冒頭に、岡学長から「年に1度の機会を楽しみにしていました。様々なデータから若手の先生方の活躍というのは明らかであり、それぞれの分野で先生方の力がいかんなく発揮されることで日本や世界に貢献できると期待しています。懇談では様々な意見を頂いて、

大学としてできる支援に取り組みたいと思っています。」と挨拶がありました。次に、テニュアトラック教員による自己紹介・研究内容の説明があり、学長・理事からは、研究の専門的な内容から発展性や社会への還元など多くの質問がありました。テニュアトラック教員として3・4年目の教員に対しては研究環境について質問があり、学生の指導を行う上での工夫や、研究員を雇用することで研究が進むだけでなく学生に対して良い影響があった等の意見がありました。その他にも、セミナーを通じた研究者どうしの繋がりによる共同研究、機器の共同利用、研究の広報など様々な話題が出て大変盛り上がりました。

この懇談会を通じて、学長・理事においては今後の大学の機能強化を図るうえで若手研究者からの意見を聞ける良い機会となり、テニュアトラック教員にとっては、直接大学執行部と意見交換できる場となり、大変有意義な時間となりました。



出席者の集合写真

前列左から、渋谷 助教(共同獣医学部)、山本 助教(医学系研究科)、西形 准教授(理工学研究科(工学))、岡 学長、上條 准教授(理工学研究科(理学))、樋山 准教授(理工学研究科(工学))、佐合 助教(農学部)
後列左から、重本 学術研究部長、瀬瀬 理事、原 助教(医学系研究科(理学))、寺尾 助教(時間学研究所)、三池 理事、田中 理事

「学長・理事と女性教員との懇談会」に高野准教授が出席

平成28年1月12日(火)、吉田キャンパスで、本学の女性研究者支援を推進するため、学長・理事と女性教員との懇談会が開催されました。本学は、平成26年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」に選定されました。今回の懇談会では、女性教員を取り巻く職場環境の実態や、ライブイベント中の支援制度等について、意見交換が行われました。

この懇談会を通じて、女性教員の研究環境整備や支援策のよ

り一層の充実に向けた取組みが期待されます。



懇談会の様子

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業 テニュアトラック普及・定着事業

編集・発行

国立大学法人山口大学 大学研究推進機構研究推進戦略部 URA室テニュアトラック担当

〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1 山口大学吉田キャンパス共通教育棟本館2階

Tel 083-933-5384

E-mail tenure@yamaguchi-u.ac.jp

URL <http://www.tenure.jimu.yamaguchi-u.ac.jp/>